

RCNP 研究会報告

タイトル：PENTAQUARK04

世話人：

Hiroshi Toki (Chair, RCNP, Osaka)

Schin Date' (Scientific Secretary, SPring-8)

Atsushi Hosaka (Scientific Secretary, RCNP, Osaka)

Kenneth Hicks (Ohio)

Tomoaki Hotta (RCNP, Osaka)

Ken-ichi Imai (Kyoto)

Noritaka Kumagai (SPring-8)

Takashi Nakano (RCNP, Osaka)

Yuji Ohashi (SPring-8)

Makoto Oka (Tokyo Inst. Tech.)

日程：平成 16 年 7 月 20 日(火) - 23 日(金)

開催場所：SPring-8

参加者数(国内 / 国外)：70 名 / 50 名

研究会ホームページ：<http://www.rcnp.osaka-u.ac.jp/~penta04/>

内容：

JASRI/SPring-8 との共催によって、開催時点における実験・理論両方の最新情報に関して、意見交換・議論を 4 日間にわたって行った。実験の報告からは、preliminary な報告も含め行われ、非常に活発な議論がなされた。

LEPS グループによる報告がなされてから 1 年間の間に、理論・実験ともに非常に多くの研究がなされた。最近のペンタクォークを取り巻く状況は急速に変化し、その存在自身を問う報告がいくつかされるようになった。存在の是非を確定するのは実験の課題であるが、それを理解するのは理論の課題である。これまでの理論研究の予言にばらつきがあることも明らかになってきたが、このことは、ハドロン物理において重要な点がいまだ理解されていないことを示しているのかもしれない。

ワークショップは、SPring-8 所長である吉良氏と RCNP センター長である土岐氏との opening address によって始められた。報告数が多かったためパラレルセッションを設けざるを得なかったが、夕方のポスターセッションを設け、パラレルトークをより議論する機会とした。キースピーカーとしては、LEPS での実験を強く動機づけした Diakonov 氏、長年にわたり exotics を研究してきた Lopkin 氏を迎えた。また、主要な実験グループからは、肯定的・否定的いずれのグループからも招待講演を依頼した。合計で 64 のトークが紹介された。

この会議の報告書は World Scientific からの出版予定である。

また、最後に、この workshop は井上科学財団とオハイオ大学からも支援を受けたことを添える。